

くすっと

第3号
くすのき商工会女性部
2021年10月1日
編集 今村美智子
伊藤和子
右田恵子



吉部の藤村理絵さんにインタビュー！

今回は、藤村建設の藤村理絵さんにお話を聞かせていただきました。
理絵さんは吉部で育ち、同じ吉部で生まれ育ったご主人とご結婚され、23歳の息子さん、21歳の娘さん、11歳の息子さんの3人のお子様にお恵まれ、現在は、上の息子さんは大阪に行かれており、ご家族4人暮らしています。

家の広い敷地の中には、ポニーが1頭おり、今まで何頭ものポニーを育ててきたそうです。その中の1頭が、秋吉台サファリランドにいるチョコちゃんです。秋吉台サファリランドに行くと、チョコちゃんの乗馬体験ができますよ。

また、理絵さんは藤村建設のお仕事の傍ら、美東サービスエリア（下り）の宝くじ売り場で、大きな夢を売るお仕事もされています。

21歳の娘さんは、本紙の前号でご紹介した柳ちえみさんと同じ大阪の辻製菓専門学校をご卒業され、今は萩の“うきしま工房”で働かれています。シュークリームが有名なお店だそうですので、お近くに行かれる際はぜひお立ち寄りください。（下記の耳より情報をご参考に）



↑聖火リレーのトーチを万倉の方に借りて写真を撮った時のものです。

くすのき情報

このお花、道路沿いでもたまに見かけたことはありませんか？
ヤナギバルライソウ（柳葉ルイ草）と言います。春から晩秋まで、鮮やかな紫のかわいい花を次々と咲かせます。
花言葉は「正直」「勇気と力」「愛らしさ」です。力強く生長し、愛らしさにあふれる花が咲くヤナギバルライソウを象徴しています。



重陽

古来中国では、奇数はよいことを表す陽数、偶数は悪いことを示す陰数と考え、その陽数が連なる日は、めでたい反面、不吉なことが起こると考え邪気祓いをしたのが五節句（1月1日＝人日にんじつ、3月3日＝上巳じょうし、5月5日＝端午たんご、7月7日＝七夕しちせき、9月9日＝重陽ちゅうよう）の始まりです。その中でも一番大きな陽数（9）が重なる9月9日を、陽が重なると書いて「重陽の節供」と定め、菊を観ながら歌会、長寿を祈る菊酒、菊の花に真綿をかぶせて菊の夜露と香りを染み込ませた被綿（させわた）で翌朝顔や体を拭き若さや健康を願う風習などがあります。

重陽の節供が行われた旧暦の9月は、作物の収穫が終わるころ。この時期のお祭りでしたから、収穫祭として全国に伝統行事が残っています。特に有名なのは九州地方の「くんち」。くんちとは、9日が訛ったもので、「長崎くんち」や「唐津くんち」などが新暦の10月に盛大に行われています。重陽の節供が姿を変えて残っている例といえます。



ひとこと

現在、編集部は3名で活動しています。
一緒に取材や編集に関わってくれる方を大募集していますので、興味のある方はぜひ今村まで！
080-5007-8511

耳より情報

エールラポール ☎0836-67-1153

9月に新商品発売！
ぜひご来店くださいませ。

Sweetsうきしま工房 ☎0838-22-0545
萩市土原609-1

営業時間 9:30～18:30
（なくなり次第閉店します）
定休日 水曜日（祝日営業、翌日休）

くすのきマルシェ
10月25日（月）

10:00～14:00

山口銀行 船木支店

主催：山口銀行船木支店
共催：くすのき商工会

キッチンカー、お弁当
野菜、化粧品などが
たくさん出店予定です！